

令和6年12月18日
教育研究・ICT推進課

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 主旨

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として実施している。

今回、令和6年4月に実施した全国学力・学習状況調査について、令和6年9月に速報値について報告したところであるが、この度結果を分析してまとめたので報告する。

2 調査結果

別紙「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析報告書」のとおり。

3 結果の概要

- (1) 教科に関しては、小学校国語・算数、中学校国語・数学ともに、区平均正答率は、都・国を上回っており、良好であるといえる。
- (2) 質問紙に関しては、「キャリア教育」、「せたがや探究的な学び」、「非認知能力」の視点から、児童・生徒が主体的に学びに向かう肯定的な回答が増加している傾向が読み取れる。
- (3) 教科の結果と質問紙のクロス集計結果からは、肯定的な回答をした児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高くなる傾向が見られ、非認知能力と認知能力については相関関係があるといえる。

4 今後の取組み

- (1) 教育委員会は、本報告書を各学校へ示し、自校の児童・生徒の状況と比較し、今後の指導方法の改善・充実に生かすよう指導する。
- (2) 幼稚園・こども園、小学校、中学校それぞれの校種において、幼児期からの学びの連続性による非認知能力を育成することで認知能力が向上するとの仮説を検証する。

5 スケジュール

令和6年12月 各学校に別紙「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析報告書」送付

令和6年度
全国学力・学習状況調査の
結果分析報告書

令和6年12月
世田谷区教育委員会

目次

1	調査概要	- 1 -
2	教科に関する調査結果概要	
- 1	教科に関する調査結果	
	小学校 国語	- 2 -
	算数	- 2 -
	中学校 国語	- 3 -
	数学	- 3 -
3	質問紙調査結果（児童・生徒）	
- 1	「キャリア教育」に関する視点から	- 4 -
- 2	「せたがや探究的な学び」に関する視点から	- 5 -
- 3	「非認知能力」に関する視点から	- 6 -
4	クロス集計結果より	- 9 -

1 調査概要

- ◆ 調査日時 令和6年4月18日（木）
- ◆ 調査事項
 - ① 小学校6年生 質問紙 教科：国語 算数
 - ② 中学校3年生 質問紙 教科：国語 数学
- ◆ 調査目的
 - ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ② 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ③ ①②を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◆ 調査内容
 - ① 教科「国語」：知識・技能等、活用を一体的に問う問題
 - ② 教科「算数・数学」：知識・技能等、活用を一体的に問う問題
 - ③ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

- ◆ 調査対象及び集計対象 児童・生徒数・学校数

小学校調査

	調査対象児童数	集計対象児童数	調査対象学校数	集計対象学校数
世田谷区立	6,156人	5,832人	61校	61校
公立学校	1,009,751人	947,579人	18,529校	18,466校
国立学校	6,377人	6,173人	75校	75校
私立学校	13,373人	6,637人	246校	130校
合計	1,029,501人	960,389人	18,850校	18,671校

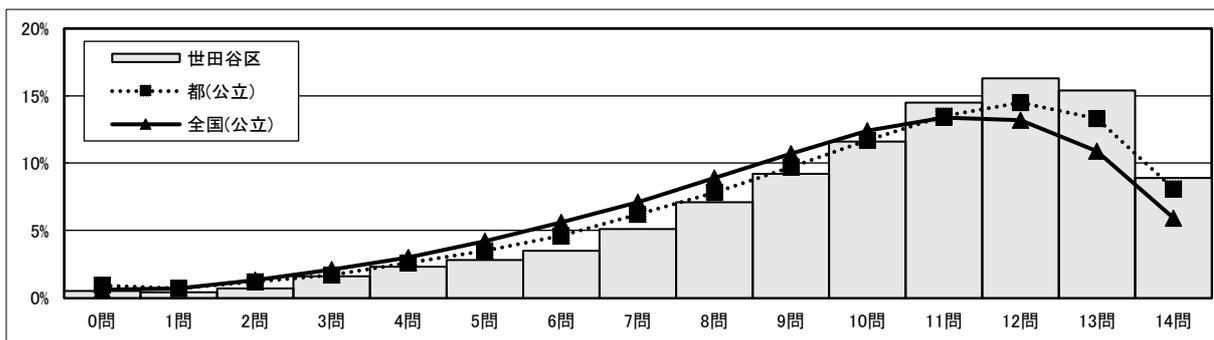
中学校調査

	調査対象生徒数	集計対象生徒数	調査対象学校数	集計対象学校数
世田谷区立	3,911人	3,586人	29校	29校
公立学校	967,619人	875,952人	9,347校	9,268校
国立学校	9,973人	9,291人	80校	78校
私立学校	83,648人	18,805人	801校	257校
合計	1,061,240人	904,048人	10,228校	9,603校

※ 2ページ以降「2 教科に関する調査結果概要」（指導のポイント）では、「令和6年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省 国立教育政策研究所）より引用、一部改変している。

2 教科に関する調査結果概要

小学校 国語 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合） 問題数：14問



<分類・区別集計結果 (%)>

		世田谷区	都(公立)	国(公立)
平均正答率		73.0	70.0	67.7
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.0	67.9	64.4
	情報の扱い方に関する事項	90.1	88.8	86.9
	我が国の言語文化に関する事項	81.0	75.3	74.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	64.9	63.9	59.8
	書くこと	71.3	69.9	68.4
	読むこと	75.5	71.9	70.7
評価の観点	知識・技能	76.5	72.6	69.8
	思考・判断・表現	70.5	68.4	66.0
問題形式	選択式	75.3	73.0	69.9
	短答式	67.4	63.1	59.7
	記述式	67.6	63.7	64.6

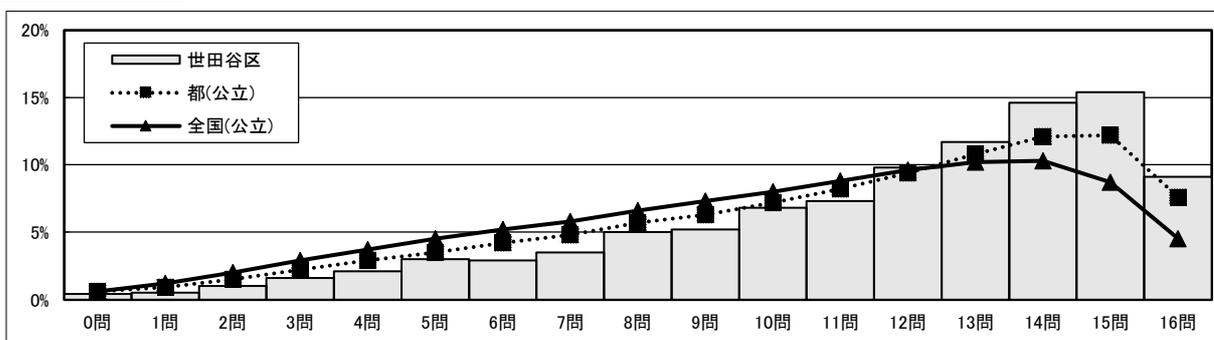
<調査結果のポイント>

区の平均正答率は73%で、すべての内容において全国・東京都を上回っている。

<指導のポイント>

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を書くことに課題があると考えられる。伝え合う内容を検討する際には、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理しておくことが重要である。学習指導に当たっては、伝え合う内容を検討する際に、自分が伝えたいことと聞き手の求めていることに応じて情報を整理するよう指導することが重要である。

小学校 算数 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合） 問題数：16問



<分類・区別集計結果 (%)>

		世田谷区	都(公立)	国(公立)
平均正答率		72.0	68.0	63.4
学習指導要領の領域	数と計算	74.1	70.6	66.0
	図形	75.2	70.8	66.3
	測定	---	---	---
	変化と関係	66.1	59.3	51.7
	データの活用	68.6	65.2	61.8
評価の観点	知識・技能	80.5	76.7	72.8
	思考・判断・表現	62.1	57.1	51.4
問題形式	選択式	82.5	79.2	75.3
	短答式	73.1	67.6	62.0
	記述式	58.7	55.1	51.0

<調査結果のポイント>

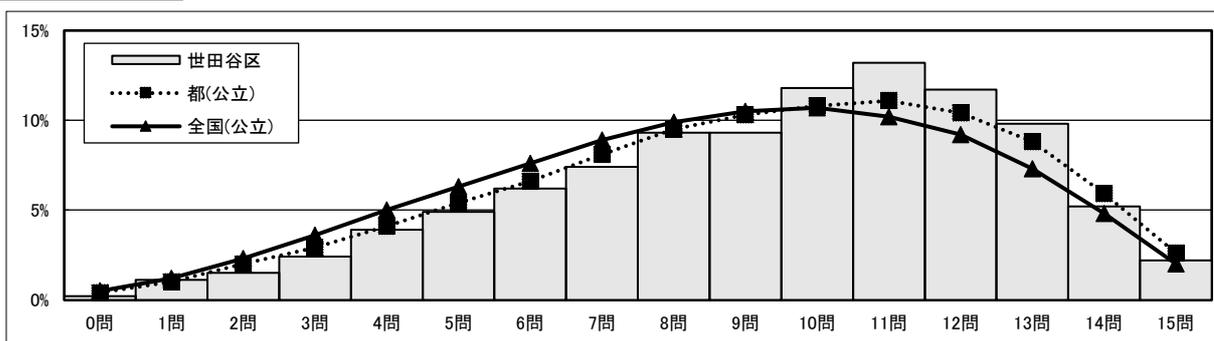
区の平均正答率は72%で、すべての内容において全国・東京都を上回っている。

<指導のポイント>

データの取り出しについて、課題があると考えられる。目的に応じて、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理し、表に表すことができるようにすることが重要である。指導に当たっては、表に表す活動が考えられる。その際、目的に応じて、整理する観点を決めることができるようにすることが大切である。

* 「測定」は今回出題なし

中学校 国語 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合） 問題数：15問



<分類・区分別集計結果（％）>		世田谷区	都(公立)	国(公立)
平均正答率		62.0	61.0	58.1
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	63.7	61.6	59.2
	情報の扱い方に関する事項	64.6	62.9	59.6
	我が国の言語文化に関する事項	74.1	75.7	75.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	63.3	62.9	58.8
	書くこと	69.7	67.9	65.3
	読むこと	52.8	50.8	47.9
評価の観点	知識・技能	65.7	64.4	62.0
	思考・判断・表現	60.0	58.6	55.4
問題形式	選択式	64.8	63.5	61.0
	短答式	65.9	64.6	61.8
	記述式	51.4	49.6	45.5

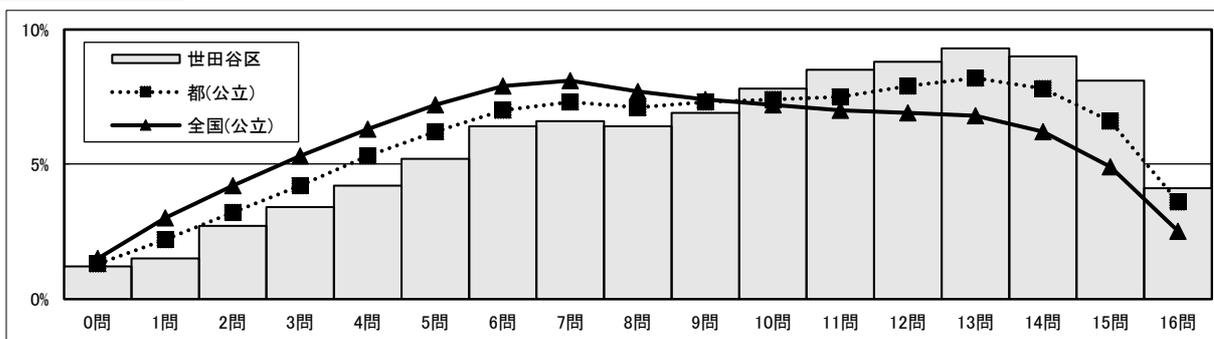
<調査結果のポイント>

区の平均正答率は62%で、「我が国の言語文化に関する事項」を除き、全国・東京都を上回っている。

<指導のポイント>

「我が国の言語文化に関する事項」のうち「行書」に関する書写問題の正答率が低かった。また資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことに課題があると考えられる。聞き手に自分の考えを伝える際には、分かりやすく伝わるように資料を用いるなどして表現を工夫することが重要である。指導に当たっては、話し言葉の特徴や、視覚に訴えることの効果などを踏まえて考えることができるようにする。

中学校 数学 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合） 問題数：16問



<分類・区分別集計結果（％）>		世田谷区	都(公立)	国(公立)
平均正答率		61.0	57.0	52.5
学習指導要領の領域	数と式	62.3	56.2	51.1
	図形	50.7	46.5	40.3
	関数	66.1	63.5	60.7
	データの活用	60.1	59.1	55.5
評価の観点	知識・技能	70.3	67.3	63.1
	思考・判断・表現	38.9	34.2	29.3
問題形式	選択式	64.7	62.4	58.5
	短答式	75.0	71.3	67.0
	記述式	38.9	34.2	29.3

<調査結果のポイント>

区の平均正答率は61%で、すべての内容において全国・東京都を上回っている。

<指導のポイント>

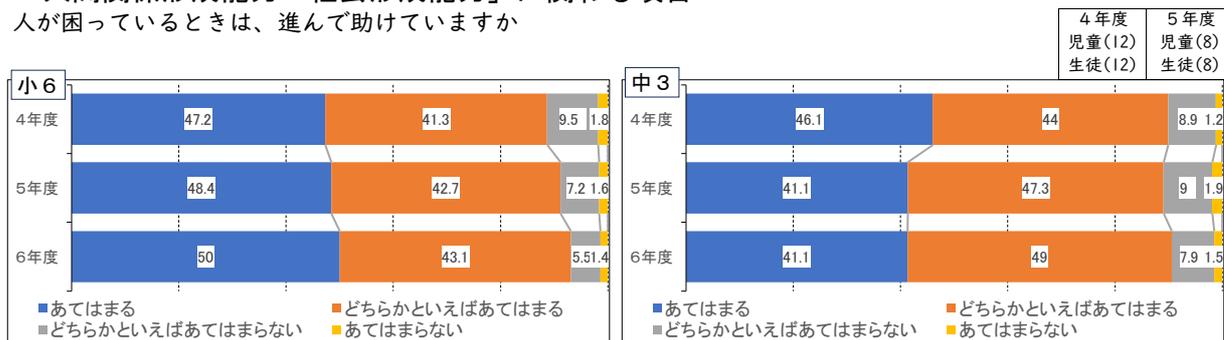
グラフの読み取りはできているが、条件の違いによっておこる変化を数学的に表現することに課題があると考えられる。様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが大切である。その際、数学を活用する方法を説明できるように指導することが大切である。

3 質問紙調査結果（児童・生徒）

ー 1 キャリア教育に関する視点から

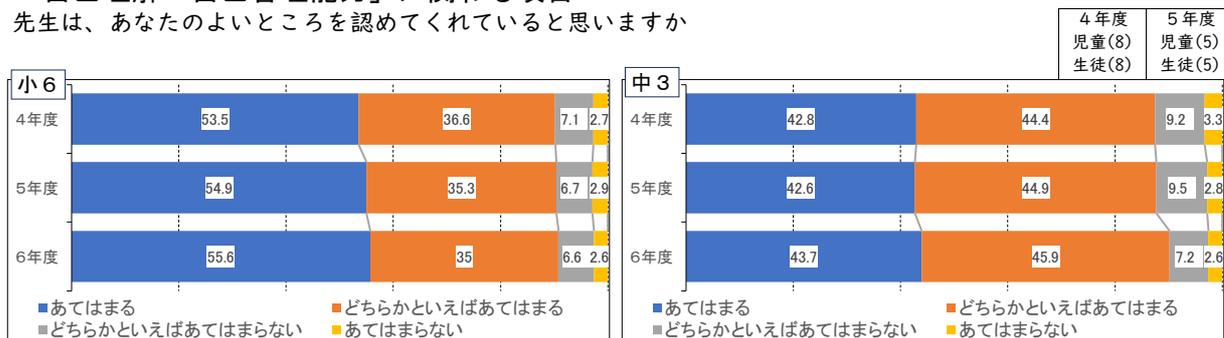
◆ 「人間関係形成能力・社会形成能力」に関わる項目

(12) 人が困っているときは、進んで助けていますか



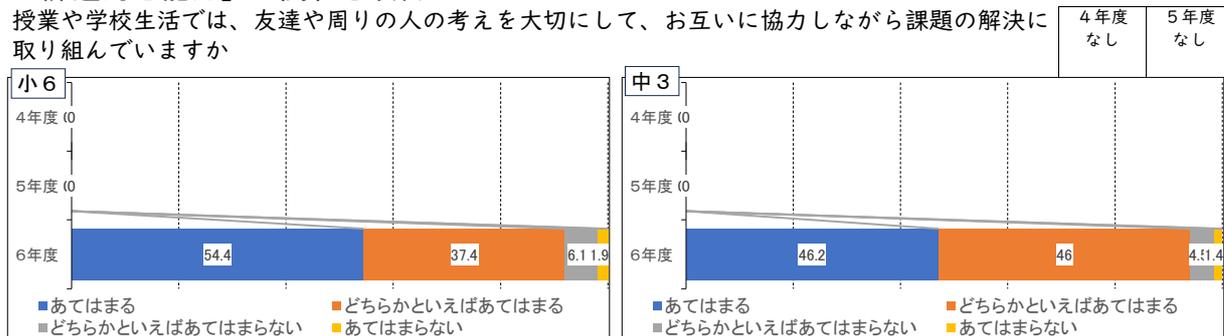
◆ 「自己理解・自己管理能力」に関わる項目

(10) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



◆ 「課題対応能力」に関わる項目

(37) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



◆ 「キャリアプランニング能力」に関わる項目

(11) 将来の夢や目標を持っていますか



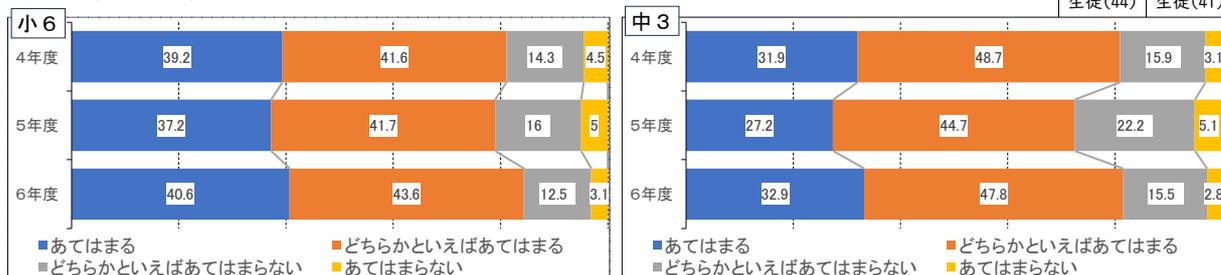
<調査結果のポイント>

- (12) 「人が困っているときは、進んで助けていますか」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合は小・中学校ともに上昇傾向にある。
- (10) 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校・中学校とも上昇している。
- (37) 「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合は、小・中学校ともに高い傾向にある。
- (11) 「将来の夢や目標を持っていますか」との質問に、「あてはまる」と回答した児童・生徒の割合は小学校では横ばい、中学校では下降の傾向にある。
- 令和4年度から区内全校で推進している「キャリア教育」が実践されたことにより、全体的な傾向としては子どもの肯定的な意識の変容に成果をあげていることが考察される。

一 2 「せたがや探究的な学び」に関する視点から

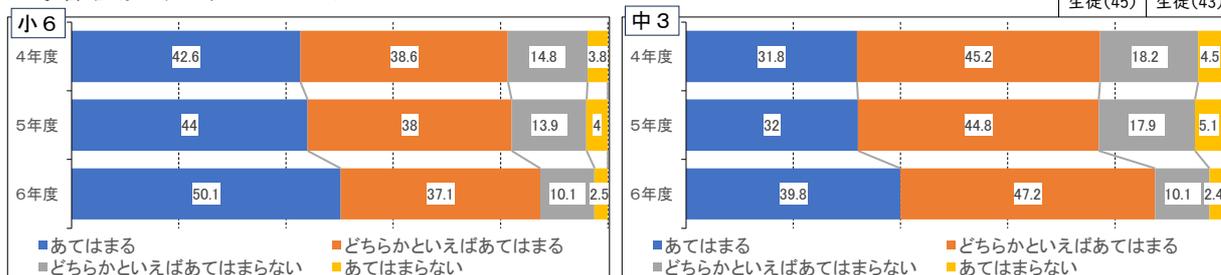
◆ 「学びを振り返り、次につなげている」に関わる項目

- (34) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



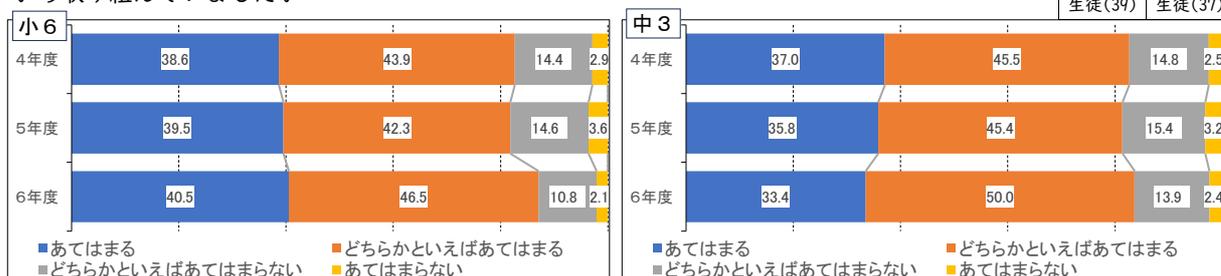
◆ 「課題を見出し把握している」に関わる項目

- (38) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



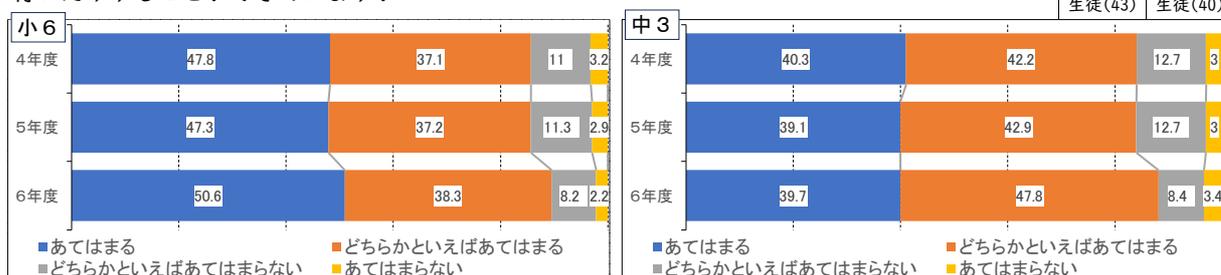
◆ 「課題解決の方法を考えている」に関わる項目

- (30) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



◆ 「協働して学んでいる」に関わる項目

- (33) 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



<調査結果のポイント>

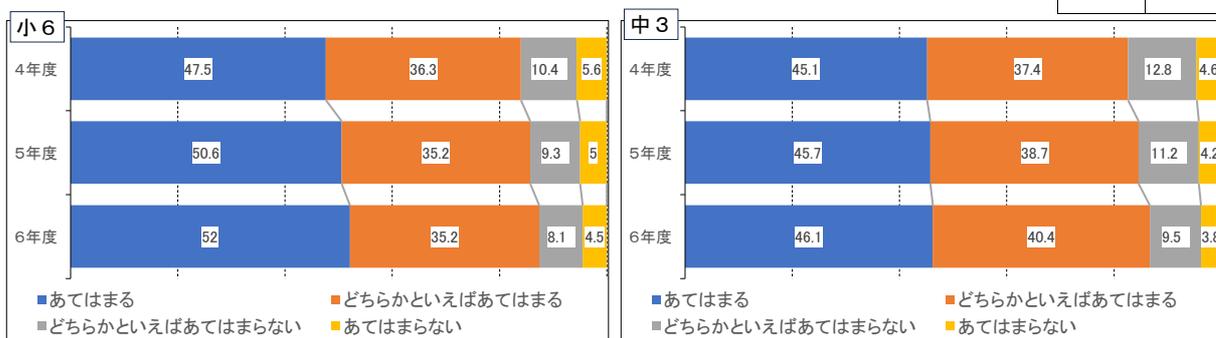
- (34) 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」との質問に、肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校・中学校ともに上昇傾向にある。
- (38) 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」との質問に、肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校・中学校ともに上昇傾向にある。
- (30) 「5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校では上昇傾向、中学校では横ばいである。
- (33) 「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」との質問に、肯定的に回答した児童・生徒の割合は小学校・中学校ともに今年度は大きく上昇した。
- 令和4年度から区内全校で推進している「せたがや探究的な学び」が各校で実践されたことにより、子どもの姿の変容に成果をあげていることが考察される。

一 3 「非認知能力」に関する視点から

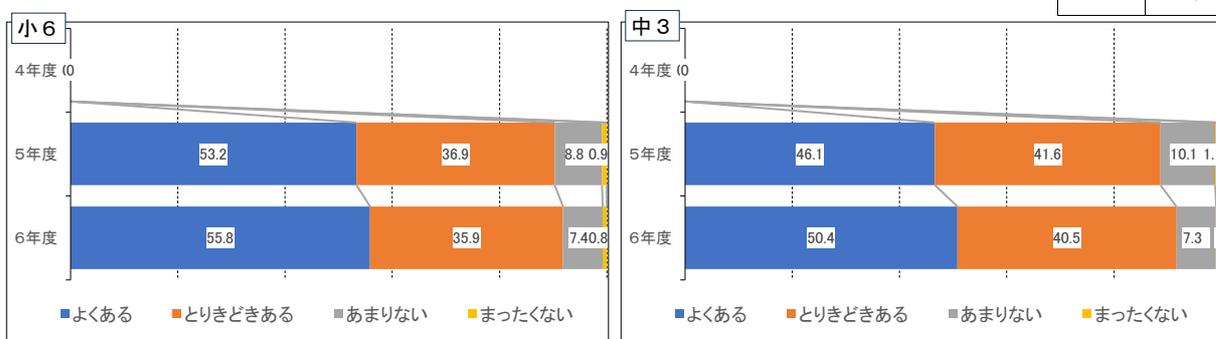
※OECDでは非認知能力に値する力を「社会情緒的スキル (Social and Emotional Skills)」と呼んでいる。

◆ 「自己肯定感」に関わる項目

(9) 自分には、よいところがあると思いますか

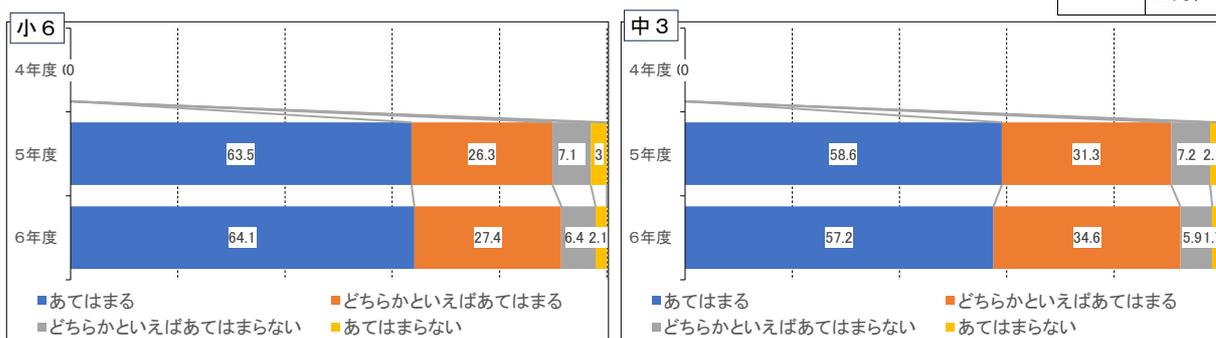


(19) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

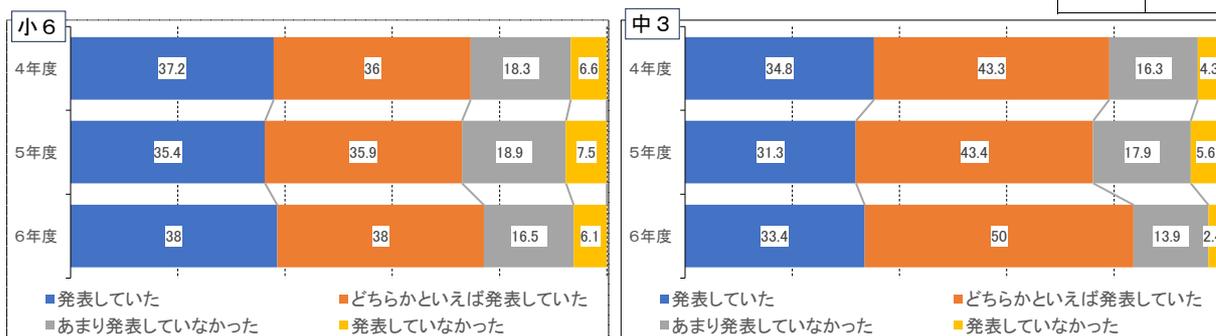


◆ 「コミュニケーション力」に関わる項目

(18) 友達関係に満足していますか



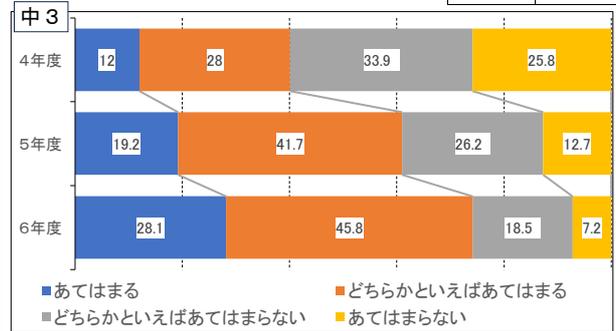
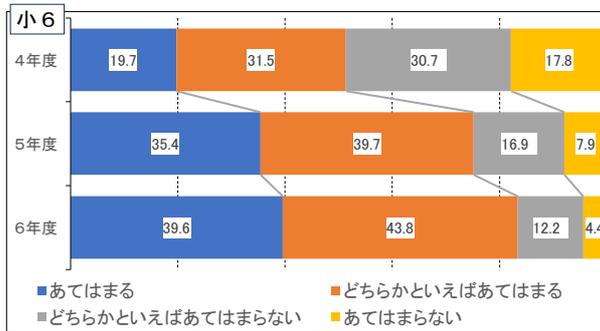
(29) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



◆ 「主体性」に関わる項目

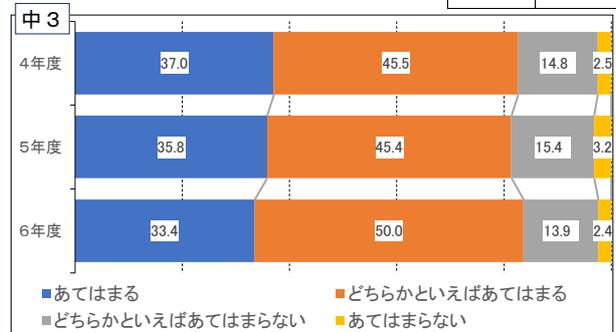
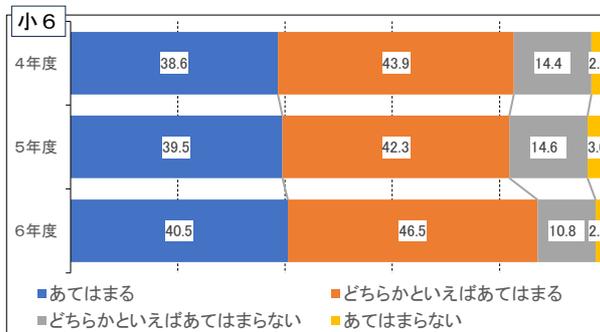
(25) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか（R4年度まで「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」）

4年度 児童(30) 生徒(30)	5年度 児童(26) 生徒(30)
-------------------------	-------------------------



(30) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

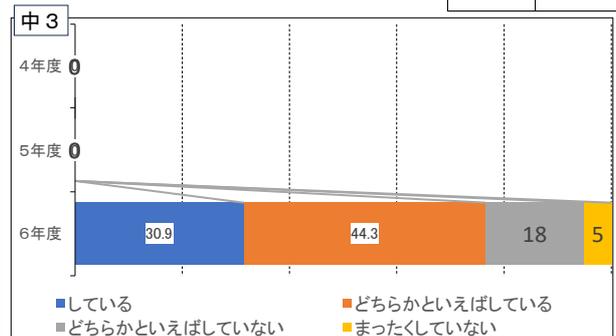
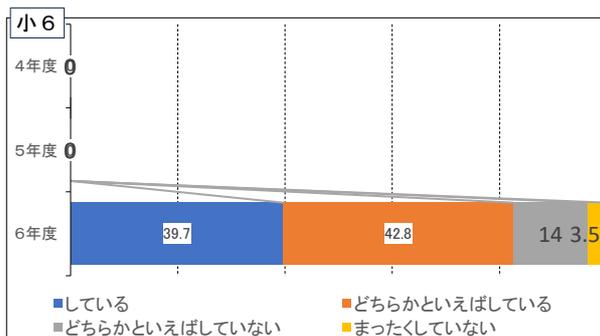
4年度 児童(39) 生徒(39)	5年度 児童(33) 生徒(37)
-------------------------	-------------------------



◆ 「自己管理能力」に関わる項目

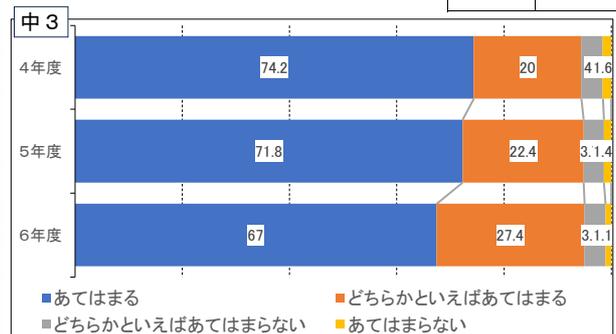
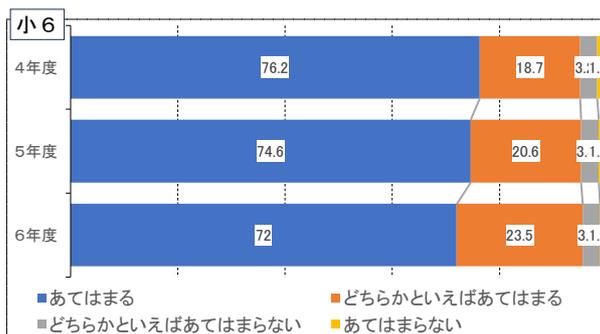
(8) 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか

4年度 なし	5年度 なし
-----------	-----------



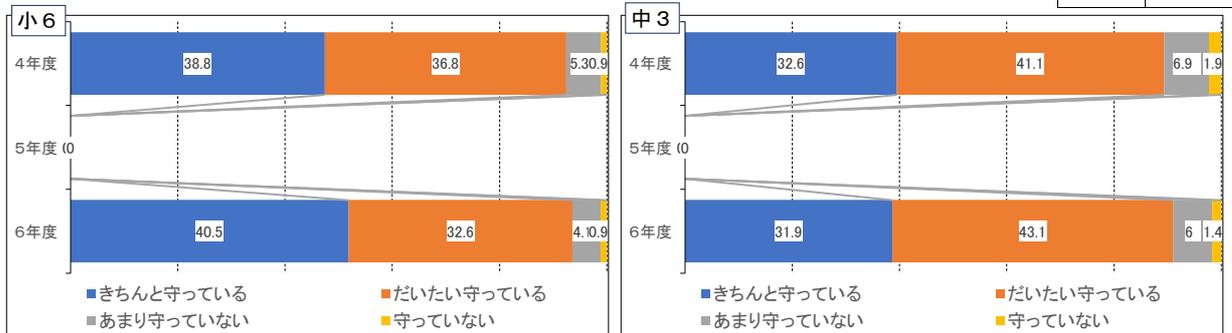
(15) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

4年度 児童(15) 生徒(15)	5年度 児童(11) 生徒(11)
-------------------------	-------------------------

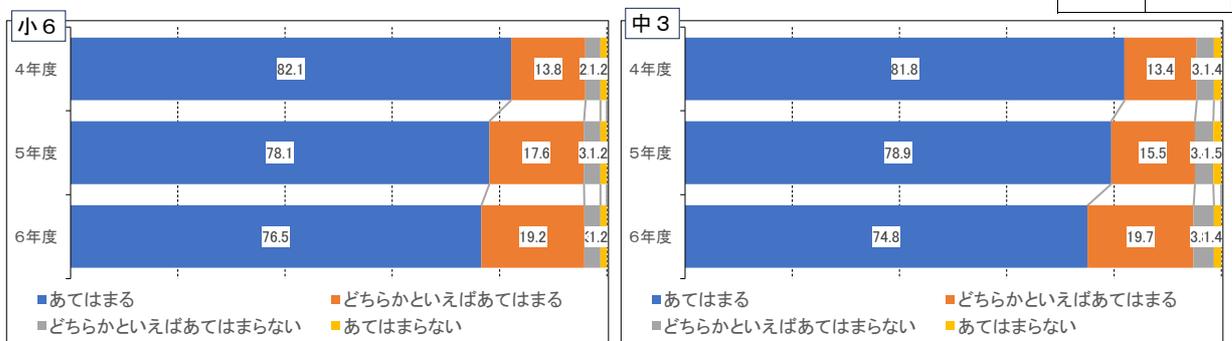


◆ 「セルフコントロール」に関わる項目

(7) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか（「持っていない」「約束がない」の回答を除く）



(13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



<調査結果のポイント>

◆ 「自己肯定感」に関わる項目について

質問(9)「自分には、よいところが…」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は小学校87.2%、中学校86.5%で、全国（小学校84.0%、中学校83.4%）と比べ、高い結果となり、3年間の肯定的な回答の状況は小学校、中学校ともに上昇傾向にある。

◆ 「コミュニケーション力」に関わる項目

質問(29)「5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では…」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校76.0%、中学校78.1%で、全国（小学校67.6%、中学校65.0%）を大きく上回る結果となった。

◆ 「主体性」に関わる項目

質問(30)「5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向け…」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校87.0%、中学校83.4%であり、全国（小学校81.9%、中学校80.3%）を大きく上回る結果となった。

◆ 「自己管理能力」に関わる項目

質問(15)「人の役に立つ人間に…」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校95.5%、中学校94.4%であり、全国（小学校95.9%、中学校95.2%）と比べて同水準である。3年間の肯定的な回答の割合は横ばいだが、令和5年度に比べ肯定的回答のうち「どちらかといえば…」が増加しているのは、全国と同様の傾向である。

◆ 「セルフコントロール」に関わる項目

質問(13)「いじめはどんな理由があっても…」に肯定的回答をした児童・生徒の割合は、小学校95.7%、中学校94.5%であり、全国（小学校96.6%、中学校95.7%）と比べ低い結果となった。3年間の肯定的な回答の状況は横ばいだが、令和5年度に比べ肯定的回答のうち「どちらかといえば…」が増加しているのは、全国と同様の傾向である。

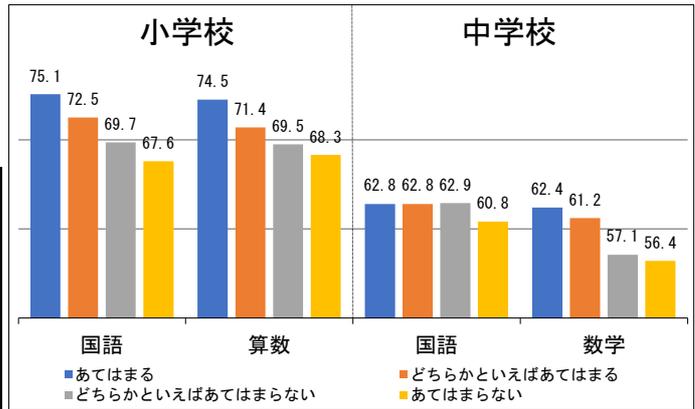
4 クロス集計結果から

*質問紙の回答(1,2,3,4)ごとに抽出した児童・生徒の平均正答率をクロス集計した。

◆ 「自己肯定感」に関わる項目

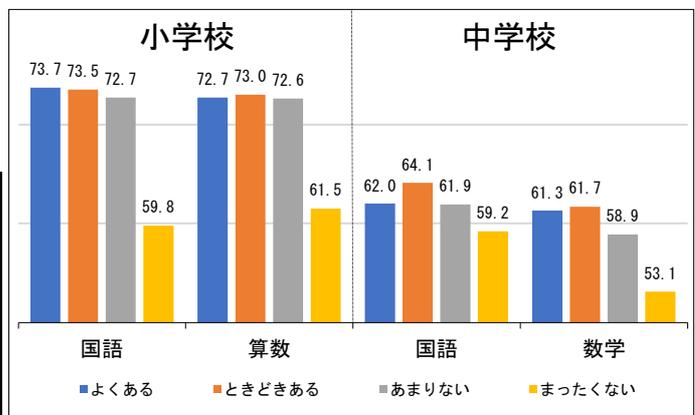
(9) 自分には、よいところがあると思いますか

選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 あてはまる	75.1	74.5	62.8	62.4
2 どちらかといえばあてはまる	72.5	71.4	62.8	61.2
3 どちらかといえばあてはまらない	69.7	69.5	62.9	57.1
4 あてはまらない	67.6	68.3	60.8	56.4



(19) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

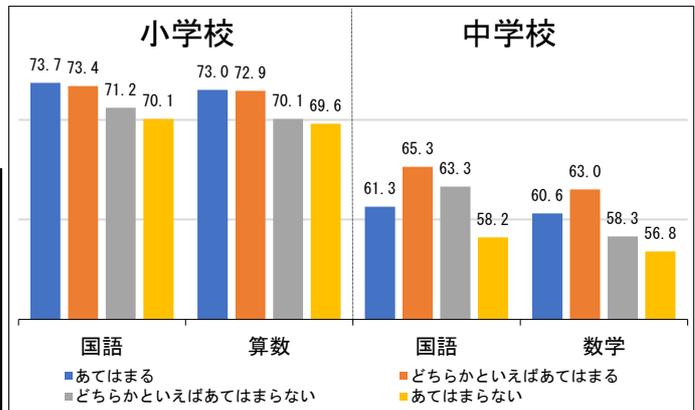
選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 よくある	73.7	72.7	62.0	61.3
2 ときどきある	73.5	73.0	64.1	61.7
3 あまりない	72.7	72.6	61.9	58.9
4 まったくない	59.8	61.5	59.2	53.1



◆ 「コミュニケーション力」に関わる項目

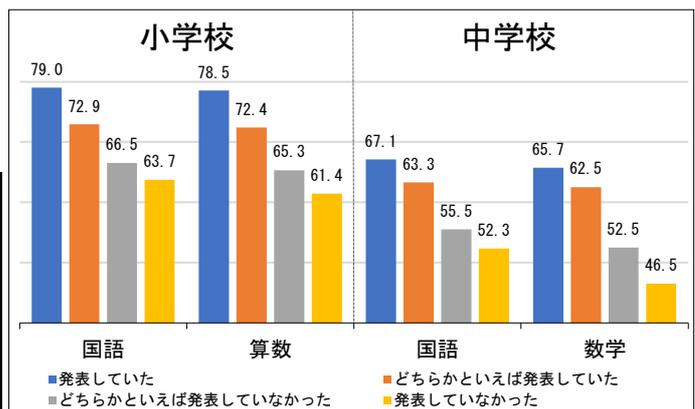
(18) 友達関係に満足していますか

選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 あてはまる	73.7	73.0	61.3	60.6
2 どちらかといえばあてはまる	73.4	72.9	65.3	63.0
3 どちらかといえばあてはまらない	71.2	70.1	63.3	58.3
4 あてはまらない	70.1	69.6	58.2	56.8



(29) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか

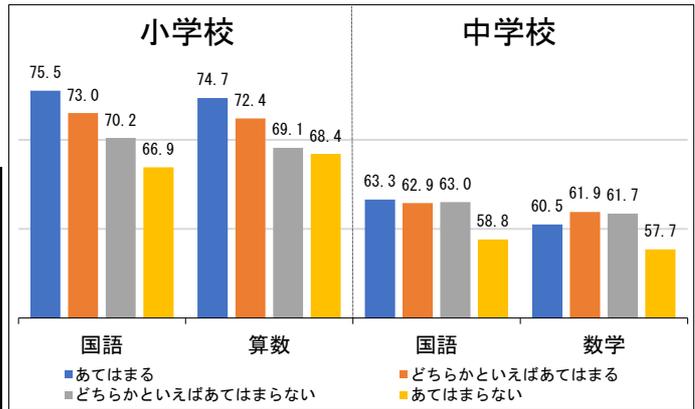
選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 発表していた	79.0	78.5	67.1	65.7
2 どちらかといえば発表していた	72.9	72.4	63.3	62.5
3 どちらかといえば発表していなかった	66.5	65.3	55.5	52.5
4 発表していなかった	63.7	61.4	52.3	46.5



◆ 「主体性」に関わる項目

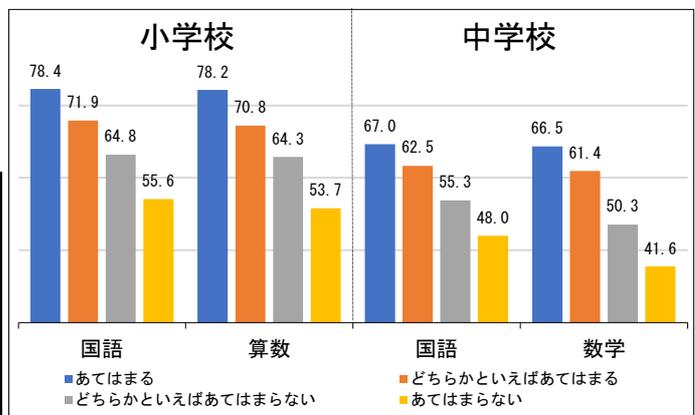
(25) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか（R4年度まで「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」）

選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 あてはまる	75.5	74.7	63.3	60.5
2 どちらかといえばあてはまる	73.0	72.4	62.9	61.9
3 どちらかといえばあてはまらない	70.2	69.1	63.0	61.7
4 あてはまらない	66.9	68.4	58.8	57.7



(30) 5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

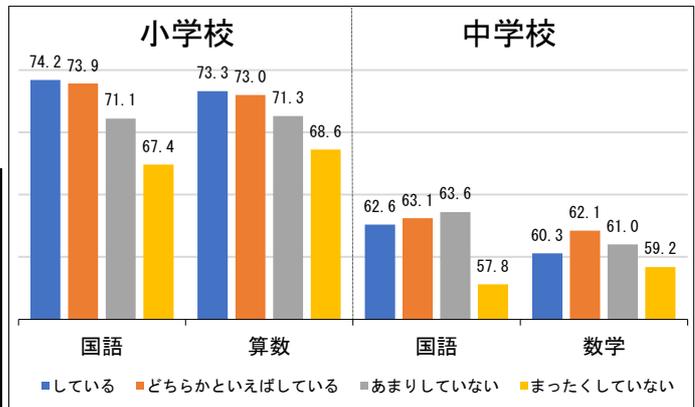
選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 あてはまる	78.4	78.2	67.0	66.5
2 どちらかといえばあてはまる	71.9	70.8	62.5	61.4
3 どちらかといえばあてはまらない	64.8	64.3	55.3	50.3
4 あてはまらない	55.6	53.7	48.0	41.6



◆ 「自己管理能力」に関わる項目

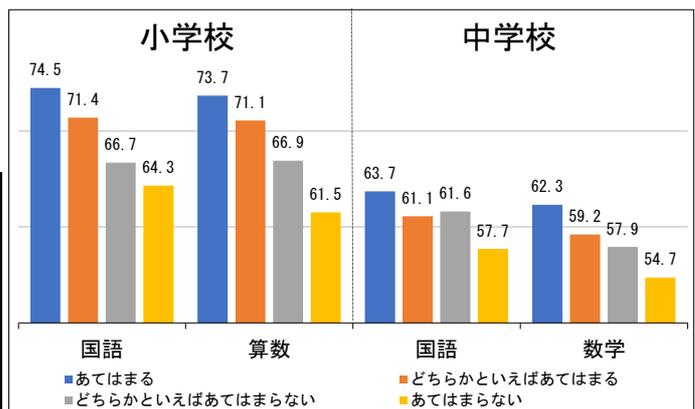
(8) 健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立っていますか

選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 している	74.2	73.3	62.6	60.3
2 どちらかといえばしている	73.9	73.0	63.1	62.1
3 あまりしていない	71.1	71.3	63.6	61.0
4 まったくしていない	67.4	68.6	57.8	59.2



(15) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

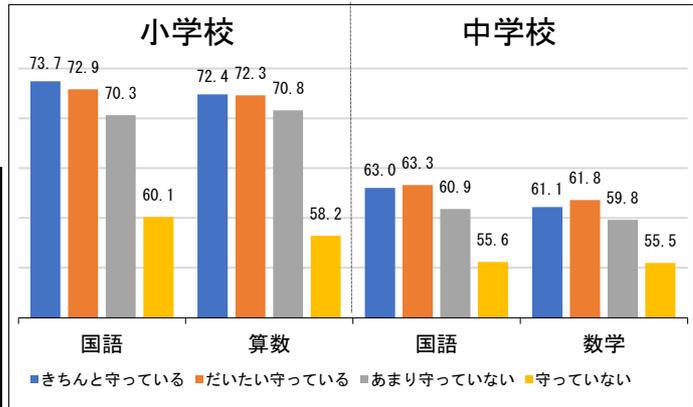
選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 あてはまる	74.5	73.7	63.7	62.3
2 どちらかといえばあてはまる	71.4	71.1	61.1	59.2
3 どちらかといえばあてはまらない	66.7	66.9	61.6	57.9
4 あてはまらない	64.3	61.5	57.7	54.7



◆ 「セルフコントロール」に関わる項目

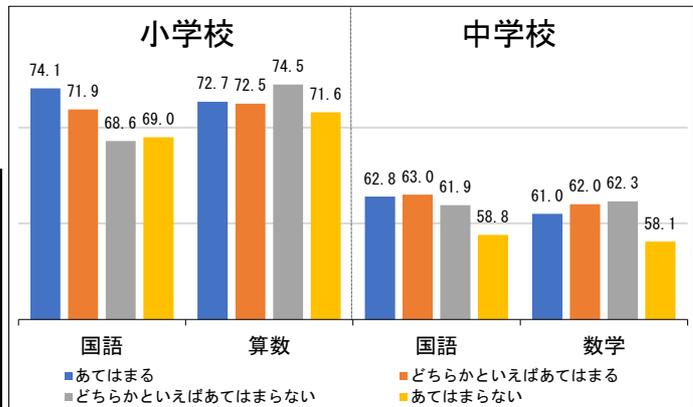
- (7) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか（「持っていない」「約束がない」の回答を除く）

選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 きちんと守っている	73.7	72.4	63.0	61.1
2 だいたい守っている	72.9	72.3	63.3	61.8
3 あまり守っていない	70.3	70.8	60.9	59.8
4 守っていない	60.1	58.2	55.6	55.5



- (13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

選択肢	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
1 あてはまる	74.1	72.7	62.8	61.0
2 どちらかといえばあてはまる	71.9	72.5	63.0	62.0
3 どちらかといえばあてはまらない	68.6	74.5	61.9	62.3
4 あてはまらない	69.0	71.6	58.8	58.1



<調査結果のポイント>

- ・非認知能力に関する視点の児童生徒質問紙の質問項目において、小学校の方が、中学校に比べて肯定的な回答をした児童生徒ほど国語・算数・数学の平均正答率が高くなる傾向がある。
- ・質問(19)「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」では、小学校において回答群「あてはまらない」の平均正答率が低い。このことより、小学校段階での平均正答率が低い児童ほど、幸福感が低いと感じている傾向がある。
- ・質問(18)「友達関係に満足していますか」では、中学校質問紙調査の回答群「あてはまる」より、回答群「どちらかといえばあてはまる」の方が、国語、数学とも平均正答率が低い。国語については、回答群「どちらかといえばあてはまらない」の方が、回答群「あてはまる」よりも平均正答率が高い。
- ・質問(29)「5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」では、肯定的な回答をした児童生徒の方が、より平均正答率が高い。つまり、授業の中で発表するとき、自分なりの工夫をしたと感じている児童生徒ほど、学力が高い傾向がある。
- ・質問(30)「5年〔1、2年〕生まで〔のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」では、肯定的な回答をした児童生徒の方が、より平均正答率が高い。つまり、授業の中で自分で課題意識をもち、課題解決に向けて考えたと感じている児童生徒ほど、学力が高い傾向がある。
- ・質問(7)「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」では、回答群「守っていない」の平均正答率が、小学校、中学校ともすべての教科で低い傾向がある。